



通所施設の看護を紹介します

びわこ学園障害者支援センターは、県内5か所で通所施設を運営しています。通所施設とは、地域・在宅で生活されている重症心身障害者の方々の養護学校卒業後の日中活動を支える通所型の施設です。

通所施設では、常時全面的な介護や多面的な医療を必要とする利用者に対し、入浴、排泄、食事の介助、医療ケアを実施し、心身ともに安楽な状態を維持しながら、創作活動や生産活動、交流活動を通して主体的に生活を営むことができるよう支援しています。

通所施設でも、医療的ケアが必要な方々が増加しており、それぞれの施設で4~6名の看護師が働いています。通所施設で活躍している看護師の声をお届けいたします！

通所施設の看護
のやりがい・
魅力は??

利用者さん本人・ご家族の地域での生活を知ることができるので、ご家族の思いをより理解し、「一緒に支える」という役割を担えるところにやりがいを感じています。一番生活に近い支援の場であり、利用者さんの普段の表情をみることができるのもいいですね。(たいよう K看護師)



ひとりひとりの利用者さんとゆっくりと一緒に過ごすことができます。家族も含め、その人の生活全体を見ながら、日中の貴重な時間を一緒にじっくり共有することでその人の人生そのものに関われることを実感できます。(ピアーズ M看護師)

本人の思いだけでなく家族の思い、支援する側の思い、沢山の思いがあるなかで、その人の生活をより豊かにするにはどうすることが良いのか、何ができるのか正解のない選択が難しいです。家族や支援に携わる職員などの考え方や価値観などに触れ、自身の考え方の幅を広げていくようにしています。いろいろな環境下の利用者さんを知り、生き方・ACPなどをしっかり学び活かせるようにしていきたいです。(ピアーズ M看護師)

難しさを感じることはありますか？
どうやって解決
していますか？

(医療機関ではなく福祉施設なので) できることに限りがあり、地域生活を行う上での希望すべてをうけとめることはできないこと、医師のいない場所での看護に対して難しさを感じる場合があります。利用者さんのことをしっかりとみて、ご家族とたくさんお話をさせていただき、お互いの思いを確かめ合うことで解決・乗り越えていると思います。(かなえ H看護師)



生活に密接した看護の場であるからこそ、答えの出ない事態に悩む場面もあります。他職種と協働で、本人・家族とじっくり向き合っていることがよく分かりますね。直面する問題がすぐに好転しない状況下でも、じっくり腰を据えて解決方法を模索する、通所施設は、そんな看護ができる場所です！(教育担当 長谷川)

